

## P-25 妊娠中イベントの世代間継承についての検討 -糖代謝異常について-

○佐藤 志織<sup>1</sup>、荒田 尚子<sup>1</sup>、坂本 なほ子<sup>2</sup>、川崎 麻紀<sup>1</sup>、三戸 麻子<sup>1</sup>、  
小川 浩平<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国立成育医療研究センター・周産期・母性診療センター、<sup>2</sup>順天堂大学・医学部・公衆衛生学教室

【背景】母親の妊娠高血圧症候群の既往は娘の妊娠高血圧症候群の発症のリスクの一つとして知られており、女性の母親の妊娠歴を聴取することでハイリスク群を選定し有効な妊娠管理を行うことができる可能性がある。我々は母子健康手帳データを用いて 3 世代家族調査（母・娘・娘の子）を行い、妊娠合併症の世代間（母・娘）の継承について検討した。【目的】母の妊娠中の糖代謝異常の発症と娘の妊娠糖尿病(**gestational diabetes:GDM**)発症や妊娠前肥満に関連があるか検討する。

【方法】国立成育医療研究センターで 2003 年より進行中の出生コホート研究である成育コホート研究・母子コホート研究・多重コホート研究参加者と当院の合併症妊娠外来受診女性を対象とした。そのうち単胎出産で、かつ研究参加者（娘）が出生した際の母の母子健康手帳が得られた女性を解析対象とした。母の妊娠・出産経過は母子健康手帳より収集し、娘の基本情報や妊娠経過は電子カルテより抽出した。母の妊娠中の糖代謝異常発症は、母子健康手帳の尿糖記載が (+) 以上を 1 回以上認めた場合と定義し、娘の GDM 発症や妊娠前肥満 (**BMI25 以上**) との関連を検討した。

【結果】成育コホート 308 組、母子コホート 973 組、多重コホート 27 組、当院の合併症外来 28 組、計 1336 組のうち欠損データを除いた 237 組を解析した。237 名の母のうち妊娠中の糖代謝異常発症 (I 群) は 16 名で、その娘のうち GDM 発症は 1 名 (6.3%)、妊娠前肥満は 3 名 (18.8%) であった。糖代謝正常の母 (N 群) は 221 名であり、その娘のうち GDM 発症は 5 名 (2.3%)、妊娠前肥満は 9 名 (4.1%) であった。この 2 群間で娘の GDM 発症については有意差を認めなかったが、娘の妊娠前肥満については有意に I 群で高頻度であった ( $p=0.038$ )。母の年齢、母の妊娠前 BMI、母の妊娠中の体重増加量、娘の出生体重で調節後の N 群を基準とした I 群の娘の妊娠前肥満に対するオッズ比は 4.36 (95%CI: 1.15-16.53) であり、母の妊娠中の糖代謝異常は娘の妊娠前肥満の有意なリスクであった。

【結語】母親の妊娠中の糖代謝異常発症は娘の妊娠前肥満のリスクになる。